

問題発見技法 課題4

【課題】

好きな都道府県を10選び、クラスター分析を行う。属性として、「面積」「人口」「収入(税込, 地方交付税ほかによる総収入)」「支出」の4つと, 産業などに関する4つの属性(例: 「リンゴの生産量」「鯖の水揚げ量」「ホテル客室数」「交通事故件数」「森林面積」「第一次産業人口」「図書館貸出冊数年間総数」「火事件数」など)を調べて用いる。

それぞれの属性の数値は出典を明らかにし, 10の都道府県で比較可能なものとする。

【作成概要】

1つのPDFファイルにして提出する。

<1 ページ目>表紙: 中央にタイトル, 右下にグループ名とメンバーの学籍番号・氏名を1行ずつ書く

<2 ページ目>データ表を示す。各データの出典を表の下に箇条書きで全て列記する。

<3 ページ目>Rを利用してクラスター分析を行い, 結果: 樹形図(デンドログラム)を示す。樹形図の下に, 使用した距離の測定法とクラスターの更新方法に何を用了のか, 箇条書きで列記する。

<4 ページ目>結果についての考察を書く。なお, ここに考察ではなく感想を書いた場合はこのレポートの評価を**0点**とするので注意すること。

【提出期限・提出先】

- ★ 提出期限: 2010年1月18日(月) 21:00
- ★ 提出先: 「public ¥jugyo ¥joho ¥経営情報学科 堀田 ¥09 問題発見技法 ¥課題4」
- ★ 提出PDFファイル名「09htf_rep4_group○.pdf」とする。○にはグループ名(例:A)を入れること。なお, 提出期限内なら提出ファイルを何度上書き保存してもよい。

問題発見技法 課題発表会

【概要】

1月19日(火)授業時に、課題3,4に関する発表会を以下の要領で行う。

- △ 各グループ代表2~3名が発表。そのうち、1名はPC操作係
- △ 提出したPDFファイルを見せながら、課題3・4の好きな方について発表する
 - 課題3: TOC, QCのそれぞれについて説明し、考察を述べる。
 - 課題4: どのようなデータを用いたか概略を述べ、樹形図を見せながら結果についての考察を述べる。
- △ 1グループ3分以内(短すぎても、超えても駄目。2分45秒~3分が理想)
- △ 時間がないので、発表開始・入れ替えを迅速に。次に発表するグループは、脇に控えて待っていること。

15:00~15:30 グループ R, S, T, U, V, W, X, Y

15:30~16:00 グループ A, B, C, D, E, F, G, H, I

16:00~16:30 グループ J, K, L, M, N, O, P, Q

- △ タイムキーパー(ストップウォッチ係、ベル係)

ストップウォッチ係は発表者・聴衆に向けて**発表開始の合図**をし、3分間を測る。
ベル係はストップウォッチ係と連携し、2分で1回鳴らし(チーン)、3分で2回鳴らし(チーン, チーン)。まだしゃべっていても3分で強制的に打ち切る。

- 15:00~15:30 → Bグループから2名
- 15:30~16:00 → Kグループから2名
- 16:00~16:30 → Sグループから2名

【評価・投票】

- △ 聴衆は、25グループの発表を聴いて、「優れている」、「面白い」、「良かった」「新しい発見を示してくれた」などと思うグループを、**時間区分毎に最大4つ**選び、投票用紙に○をつける。自分のグループを選んだ場合は無効。5つ以上○をつけた場合も無効。
- △ 投票用紙には、学籍番号・名前も記入し、自分のグループは四角で囲い塗りつぶす。きちんと記入していないものや、自グループの塗りつぶしが無いものは無効。

例) グループAの人の投票用紙と記入の仕方↓

	学籍No. A8P21xxx					氏名: 文教 太郎			
15:00~15:30	R	Ⓢ	Ⓣ	U	Ⓥ	Ⓦ	X	Y	
15:00~15:30	■	ⓑ	ⓒ	ⓓ	E	ⓕ	G	H	I
15:00~15:30	J	K	L	Ⓜ	N	ⓐ	P	ⓠ	

- △ 発表会終了後、**グループ毎に**回収。グループの代表者が学籍番号順に左上をホチキスで留めて提出する。